

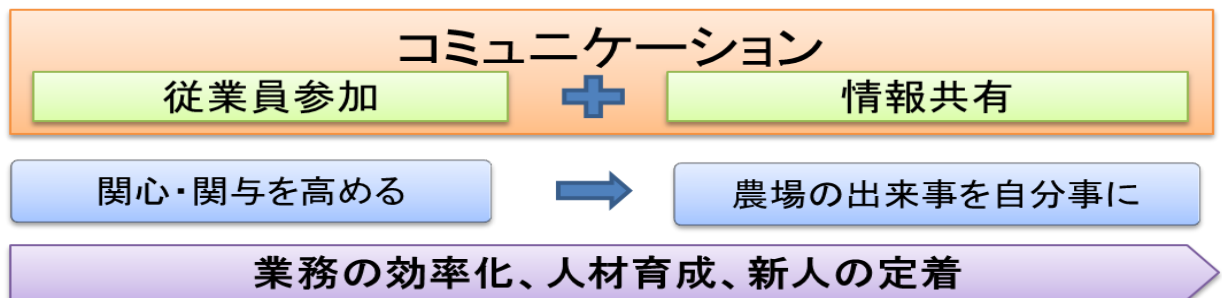
コミュニケーション事例編

～人材育成の始まりはコミュニケーションから～

農業法人での業務は、「教えること」「習うこと」を含め「あいさつすること」「お願いすること」「報告、連絡、相談すること」などコミュニケーションが基本となっています。規模拡大、6次産業化等に伴い従業員が増えると、よりコミュニケーションが重要となってきます。

日常の業務の中でコミュニケーション力を高める職場環境を整えることで、業務の効率化、人材育成に結びつけましょう。特に、経営主にとっては継続して働いてもらうために人間関係の構築は必要で、そのためコミュニケーション力向上は重要です。

今回は職場のコミュニケーション力向上の現地事例を紹介しますので、参考としてください。



1 打合せ～いろいろなパターンがあります～

最も多いものが毎日の作業ミーティングです。朝礼で当日の作業確認をするのが一般的ですが、法人によっては、午後一番、終業前のミーティングで作業の進捗状況を確認して、午後・翌日の作業の段取りに活用しています。

その他にも定例会議として週1回、月1回などの間隔で開催し、作業の計画と実績を確認し今後の作業工程の調整に活用しています。

ひと工夫事例

① 従業員参加

- ・ 司会を持ち回りにする
- ・ 体調の報告をさせる

① 情報共有（見える化）

- ・ 作業の進捗を地図に書き込んで張り出す
- ・ 作業班員の名前をホワイトボード書き込む



2 将来ビジョンの共有

法人の将来ビジョンとは、将来のなりたい姿、あるべき姿で、従業員の行動や判断の基本となります。法人のビジョンが「集落の農地は集落で守る」であれば、集落の農地の利用権設定依頼があれば、最優先される事項となります。

通常ビジョンは経営者の頭の中にありますが、従業員に伝わっていないこともあります。まずは、ビジョンを明文化することから始め従業員に伝えましょう。現地事例では、社長が自ら従業員に将来ビジョンを伝えています。

ひと工夫事例

① 従業員参加

- ・定期的にみんなで声に出して読み上げる

② 情報共有（見える化）

- ・将来ビジョンは見えるところに貼り出す

みんなが共有できる
よう工夫してみよう！



3 職場の提案

従業員からの業務改善提案は、日常の問題意識、農場への関心の高さと関係します。従業員から提案が出やすい職場の雰囲気づくりに努めましょう。

具体的には、安全標語や業務改善など様々な提案の募集をしています。良い標語、提案には金一封を出している法人もあります。

ひと工夫事例

① 従業員参加

- ・1人1提案など（あまり強制的にならないように）
- ・良い標語はみんなで声に出して読み上げる

② 情報共有（見える化）

- ・良い標語は貼り出す

みんなが問題意識を
持つようにしましょう！



4 情報共有

社内のコンピュータネットワーク、社内メール、社内SNS、ほ場管理システムなどが情報共有として利用されています。

○引用および参考文献

農業法人における職場を働きやすくするための取組み事例集 平成29年3月 新潟県農業総合研究所
農業法人における人材育成のポイント 平成29年3月 中央農業研究センター

【経営普及課 農業革新支援担当 遠山 哲史】